



福島の子どもたちを招いて“やんちゃっ子キャンプin枚方”。11人の子どもたちが元気に野外で遊び走り回りました。(8/5楠葉市民センターでの歓迎夕食会)

# 平和がいちばん

2016年8月15日  
第 110 号  
平和で豊かな枚方を  
市民みんなでつくる会

## 美術館 市議会が問われている

香里ヶ丘中央公園に計画されていた美術館問題は一応の決着を見ました。市長は議会で計画の白紙撤回を示し、公園の木々を取り囲んでいた工事用フェンスも7月に撤去され、原状に復旧されました。8月4日、市民代表と会見した市産業文化部長は「市民無視で進めてきたことは反省している」と述べました。

市長と市議会は“二元代表制”で、より良い町をつくるため市民から選ばれたそれぞれがお互いにチェックし合います。美術館問題の発端とその後の混乱は、あげて前市長の独断による計画導入でした。それは今や誰の目にも明らかです。一方、市長の独裁的な行政運営に市議会がチェック機能を果たしたのかという疑問が市民には残っています。

14年3月の「寄付」を受け入れた議会では美術館計画の不透明さなど多くの疑問が噴出し、賛成した議員すら「負の遺産になる可能性が高い」と指摘しました。年間数千万円の運営費の負担や香里ヶ丘の地域活性

化につながるのかという疑問を賛成議員も払拭できないまま動き始めたのです。新市長が白紙撤回を示した全員協議会での討論では、計画推進の議員はこの問題が混迷を深めたのは「枚方市が、私も含めてですけれど、どういうふうな美術館かということを詰めてこなかった」からだと言っています。また「覚書」締結後に美術館の先進地視察をした議員は、建設計画の目的・コンセプトや運営経費などに問題があるとして「枚方市の美術館の在り方が恥ずかしく感じる」と報告しています。

賛成していた議員のこれらの発言や文書に接すると、市民は「あのまま建たなくて良かった」と心底思います。未成熟な議論で建つ美術館にも、飾られる美術品にも不幸です。その費用を長年負担し続ける市民はもっと不幸です。ここから示される教訓は、市長が示す方針や具体策について納得いくまで議論が尽くされる市議会で行わなければならないということです。

### 沖縄・高江から緊急報告

高橋ますみ(神戸市)

沖縄県東村高江で起こっていることを知り、じっとしていられず仲間と一緒に行ってきた。参院選の翌朝、ずっと中断していたオスプレイ着陸帯新設工事が再開され、七月二二日には抗議する市民とN1入り口監視テントを暴力的かつ違法に排除。同様のことがN1裏でも起こりそうだというので八月五日の夜の集会から参加した。

全国から続々と集まった人は一〇〇〇人を超え、急ぎよテントを拡張しても入り切れない。監視のため駐車している警察車両にも移動を要請してのテント前集会となった。テント強制排除の動きは土曜にはなく、月曜か火曜か、というので予定を変更、さらに二泊して九日に帰神した。六日以降も三〇〇人規模の集会となり主催者(県民会議 オスプレイ・ヘリパッド建設阻止高江現地行動実行委員会)も驚く。福島、赤嶺、糸数、山本太郎国會議員、県會議員、弁護士団、住民代表らも参加し発言した。確かに同志満々の熱い集会で歌声にも力がこもる。

でも六日の集会に参加した目取真俊さんが重要な提起をした。本当に工事を止めるにはどうしたらいいのか。テントを守る集まりが盛り上がったと喜んでいいのか。目取真さんからは、車をのろろ運転することで資材搬入の車列の進行を妨げる作戦を県道で展開している。しかし警察力にはかなわない。一、二時間は遅らせることができるが。

現地行動は大事だ。常に入れ替わり立ち代わり全国から仲間が来て大いに盛り上がるべきだ。工事を少しでも滞らせるべきだ。今年度内完成という政府の意思をくじきたい。その現地行動を力として、もっと大事なことを、本当に大事なことに取り組まないといけない。それは全国的な世論の形成。国会での真実の暴露。実は沖縄県内でも高江のことは十分に知られていない。「基地負担軽減」詐欺と呼ぶべき手口でより猛進な戦略・作戦に備えた基地強化を強要してきたことをもっと暴露しないといけない。今はそれで頭がいっぱいだ。

# 手塚たかひろ 議員日誌

**7月25日 交野市星田戦跡巡り** 主催は「香里の歴史を考える会」。戦前、香里ヶ丘に陸軍の弾薬製造所があり、女学生が動員されていたことは知られている。エントツ山の煙突や保坂小児科の建物、陸軍用地の標識などが残っている。中宮の平和ロードは有名だが、香里製造所で作られた弾薬が鉄道で星田駅まで運ばれていたことはあまり知られていない。星田駅の近くでも線路跡がそのまま道路になっている。星田駅北開発計画が進められようとしている。この道路がどうなるのか、枚方、交野で協力して戦跡の保存を考えなければと思う。

**7月30日・31日 ZENKO in 大阪** 「『STOP戦争・改憲！倒そう安倍・おおさか維新』99%の世界をつくろう！国際連帯で」のテーマで取り組まれた。福島みずほ参議院議員やわたなべ結さんもあいさつに駆けつけ、参議院選挙での野党共闘の広がりを実感した。沖縄の上間さんは、緊迫した高江の状況を報告。参議院選で基地NOの沖縄の民意が改めて示されたが、その10時間後政府は機動隊を動員して県道を封鎖した。オスプレイ離発着訓練のためのヘリパット建設強行しようとしている。問答無用での新基地建設、戦争できる国家づくりを進めている安倍内閣を市民共闘、野党共闘の強化で追い詰めなければとの思いを強くした。

**8月5日 香里ヶ丘中央公園の見守り活動300回** 2014年8月29日、見守り活動が開始。暑い日も雪の日も雨の日も見守り活動を継続して、5日が300回目となった。森のバリケードも撤去され公園は市民の手に戻り、美術館建設も事実上白紙に戻った。①連日、見守り活動を早朝から夕方まで継続し建設強行を許さなかった、②白紙撤回を求める署名を16000筆以上集め、広く市民に訴えた、③市内18箇所ですべて賛否を問うシール投票を行い、反対する市民は少数でないことを市民・市当局・議会に知らせた、④絵本『アラカシのもり』ができて、参加者の広がりを作りだした、⑤連日のミーティングは情報を共有し、誰もが自由に発言でき、みんなで議論しみんなで決める「市民自治」が実践された。このような粘り強い市民運動の成果だ。

**7月22日** 7月分議員報酬から219,600円を大阪法務局に供託

## 意見箱 諦めなければちゃんと声は届くんやなあ 松本幸子(絵本「アラカシのもり」作者)

1年半前、美術館建設予定地の森が舞台の絵本『アラカシのもり』をかきました。「今日にも木が伐られるかもしれない」という危機感を抱く毎日。森を守るために自分には何ができるだろう。絵本はその一つの答えでした。息子は階段でおやつを食べるのが大好き。友達やお姉ちゃんと一緒に、果物を食べたり、パンを食べたり。そんな幸せなひとときを絵本にもこっそり描きました。喋れるようになってからは、森のフェンスの前を通るたびに「階段でおやつを食べたい」と言うように。あの頃のこと、覚えてるんだ。度重なる市への署名に「かいだんでおやつをたべたい」と毎回代筆でコメントを添えました。7月6日。フェンスに貼り紙があるという知らせを聞き、急いで駆けつけると、「7月7日撤去します」とのこと。夢じゃないかと何度も声に出して読み返しました。もうもう嬉しくて、涙で字が滲んで見えました。その夜は、家族で前夜祭。この2年間、森をめぐる動きを見ていた中1の娘も、

「スゴイ！」「友達にも報告せなあかん！」と喜び爆発。諦めなければちゃんと声は届くんやなあ、と娘が話すのを聞いて、頑張り続けてきた背中を見てくれたんだと。子どもたちにとっても、とても身近だった今回の美術館問題。活動のすべてが生きた勉強になったのではと思います。何もかも嬉しくて、親子で何度も乾杯しました。7月7日、朝から息子と森へ。みんなが見守る目の前でフェンスがどンドン外されていき、ああ、夢じゃなかった、と。荒れた森が手入れされ、夕方になってようやく中に入れるようになると、息子はすぐに階段へ。ささやかな夢だった「階段でおやつ」。長くて困難な道のりだったけど、夢が叶う日が来た・・・！見守り隊の方たちも一緒に喜んでくださり、とんがりコーンで「カンパイ！」。今までの月日が頭をよぎり、感無量。みんなの力で森が市民のもとに戻り、息を吹き返し、みんなが笑顔に。一生忘れられない一日になりました。

〒573-0027

枚方市大垣内町

2丁目8-27

シンエービル別館A

市民の広場“ひこばえ”

TEL&FAX

072-846-8780

### 平和で豊かな枚方を市民みんなで作る会

共同代表 黒田 薫 (平和都市枚方を考える市民の会)

鈴木めぐみ (親と子のリズム遊び講師)

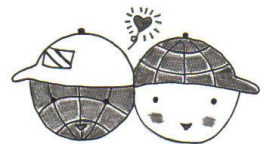
奥村 秀二 (弁護士)

おおた幸世 (枚方市平和無防備条例を実現する会)

事務局長 手塚 隆寛 (枚方市会議員)

メールアドレス: [hiratkatasiminnokai@yahoo.co.jp](mailto:hiratkatasiminnokai@yahoo.co.jp)

ホームページ: <http://hiratkatasiminnokai.jimdo.com/>



「会」のシンボルマーク  
塔本賢一さん作